第43回

北方領土返還要求 山形県民大会

参加無料

北方領土と歴史的なゆかりがある山形県では、県内の関係機関や団体による協議会を設立し、北方領土の返還を求める運動や啓発活動を行っています。

第二次世界大戦終戦後の1945年８月末から９月初め、ソ連(今のロシア)が北方領土を占拠し、戦後81年経った今日においても、この領土問題は解決に至っておりません。

北方領土問題の解決には、国民一人ひとりが関心と理解を深め、すそ野の広い国民運動が展開されることが重要です。

この機会に、北方領土問題について一緒に考えてみませんか。





北方領土イメージキャラクター「エリカちゃん」とお友達

北海道特産品カタログギフト等が当たる！抽選会開催

主なプログラム

○「プーチン大統領、択捉島訪問 どうなる北方領土問題」
講師：元NHK解説委員 **山内 聡彦** 氏

○本県高校生による青少年現地視察事業参加報告

講師紹介等、詳しくは裏面をご覧ください。

日 時 令和８年11月27日(金)
14：00 ～ 15：30

13：30～開会まで会場内で北方領土関連動画を上映します。

会 場 酒田市公益研修センター中研修室１
(酒田市飯森山三丁目５番１号(東北公益文科大学キャンパス内))
※お車でお越しの方は大学南駐車場をご利用ください
※オンライン(ライブ配信)でもご覧いただけます

お申込み方法

●お電話でお申し込み
TEL 023−630−2106

●やまがたｅ申請でお申し込み
こちらの二次元コードよりお申込みください

主催・問い合わせ先

山形県北方領土返還促進協議会
山形市松波２丁目８－１(山形県総務部広報広聴推進課内)
TEL：023−630−2106　FAX：023−634−4532
E-mail：hopporyodo@pref.yamagata.jp

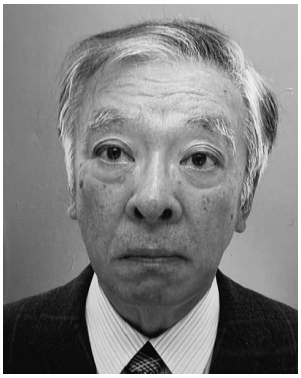
共催　独立行政法人北方領土問題対策協会
後援　内閣府北方対策本部、山形県、山形県議会、山形県教育委員会、酒田市、鶴岡市、庄内町、三川町、遊佐町
協賛　株式会社でん六

大会プログラム

❶ 開会の挨拶
❷ 主催者挨拶（田澤　伸一 会長（山形県議会議長））
❸ 山形県知事メッセージ
❹ 来賓挨拶
❺ メッセージ披露
❻ 特別講演
「プーチン大統領、択捉島訪問 どうなる北方領土問題」
講師：元NHK解説委員　山内　聡彦 氏
❼ 本県高校生による青少年現地視察事業参加報告（長井高校）
❽ 大会宣言

大会参加者には
㈱でん六さんの
豆菓子
プレゼント♪

講師の紹介



元NHK解説委員
山内　聡彦 氏
（やまうち　としひこ）

1952年、青森県弘前市生まれ。東京外国語大学ロシア語学科卒業後、1976年にNHKに入社。
1982年からNHKの国際部（外信部）、モスクワ特派員、ウラジオストク支局長、モスクワ支局長、解説委員を歴任し、35年間にわたりソ連・ロシア報道に従事。
この間、ロシア太平洋艦隊による液体放射性廃棄物の日本海への投棄をスクープし、NHK会長賞を受賞した。またプーチン大統領と２回、ゴルバチョフ元ソ連大統領と３回のインタビューを行った。

〈制作した主な報道番組〉
1991年「これがソ連の対日外交だ 北方領土交渉秘話」（NHKスペシャル）
2016年「ゴルバチョフが語る日ソ・日ロ交渉秘話／前・後編」（BSスペシャル・特集）他多数
〈主な著書〉
「ロシア現代史再考〜ソ連崩壊から読み解く大国の真相」（東洋書店新社 2017年）
「現代ロシアを見る眼－「プーチンの10年」の衝撃」（NHK出版 共著2010年）他多数

知ってましたか？
山形県と北方領土のつながり

本県出身の北方探検家
最上（もがみ）徳内（とくない）



最上徳内は、1755年、現在の村山市楯岡の貧しい農家に生まれ、27歳で武士を目指し江戸に渡り、様々な学問を学びました。
当時、日本は鎖国の時代でしたが、徳内は蝦夷地開発とロシアの南下防備のため、幕府見分隊の一員として、生涯９回も蝦夷地に渡りました。
日本最初の北方探検家として、前人未到の大地、島々の探索にあたり、1798年には択捉島に「大日本恵登呂府」の標柱を建て、日本の領土であることを明らかにしました。
ドイツのシーボルトは、「18世紀における最も傑出した日本の探検家」として、徳内を褒め称えています。

鈴木傳六さん
（㈱でん六創業者）が建立
叫びの像



一日でも早く北方四島が帰ることを願う元島民の心を表すように、「島を返せ！」と叫ぶ親子三代のブロンズ像が北海道別海町（べつかいちょう）に立っています。
これは、㈱でん六の創業者の故・鈴木傳六氏が、北方領土返還を願い、1982年（昭和57年）に建立したものです。
「本州の人は北方領土に関心が薄い」という趣旨の新聞記事を読んだ鈴木氏が、「決してそうではない」ということを示そうと思ったのが建立のきっかけになったといわれています。
この像は今や、全国の北方領土返還要求運動のシンボルとなっています。